

100th ANNIVERSARY 2007

東北大学百年史 編纂室ニュース

第10号 2005.3.1

表紙写真解説

東北帝国大学
理学部化学科

理学部化学科は昭和2年(1927)に建設が開始され、同5年の増築を経て、同9年に完成した鉄筋3階建ての建物である。写真は昭和10年頃のものと思われる。

現在は改修され、片平キャンパスの本部・法科大学院・公共政策大学院として使用されている。

(東北大学史料館所蔵)

| | |
|--|---|
| 『東北大学百年史』の題字について 百年史編集委員長・百年史編纂室長 今泉 隆雄 | 2 |
| 百年史編纂室日誌抄録 | 4 |
| 通史専門委員会部会委員名簿 | 5 |
| 受贈図書一覧 | 7 |
| お知らせ | 8 |



『東北大学百年史』の題字について

百年史編集委員長・百年史編纂室長

今泉 隆雄

百年史を手を取った時、「東北大学百年史」という題字に、なんとはなしに古雅な雰囲気を感じられなかったであろうか。それもそのはず、この題字は今から900年ほど前の平安時代末期に書かれた書なのである。本誌の余白を借りて、この題字作成の顛末を記録しておくことにする。

書物にとって、記された内容が最も大事であるのはいうまでもないが、それとともに、装幀、組版、本文の紙などの外形的なものも大切である。これら両者が相まってこそ、よい書物が出来上がるものである。これらの外形的なことについては、制作を担当する笹氣出版印刷から提出されたいくつかの案を検討して決定したが、最後に、題字をどうするかが問題となった。百年史は本学の百周年を記念する事業であるから、その題字は何か意味のあるもので飾りたいと考え、本学が所蔵する名跡から選ぶことに思い至った。本学附属図書館には、2点の国宝が所蔵されている。『類聚國史』^{るいじゅこくし} 卷第二十五と『史記』孝文本紀第十である。さっそくこの両巻のマイクロフィルムを見たところ、『類聚國史』の書跡が優れていたので、同書から集字して題字を作成することにした。集字とは、名跡などから必要な文字を集めて題字を作るやり方である。

国宝『類聚國史』

『類聚國史』は、平安時代前期、892年に右大臣菅原道真^{すがわらのみちざね}（845～903年）が六国^{りっこく}史を再編集して作った歴史書である。六国史は古代国家が編纂した『日本書紀』から『日本三代実録』までの六部の正史で、漢文の編年体の歴史書であり、その中には種々の内容の記事が日付順に記録されているために、ある事項に関して調べるのには不便である。『類聚國史』は、この六国史の記事の検索を便利にするために、各記事を内容によって分類して再編集したものである。中国では、古典の中から必要な文を集め内容別に分類・編集した類書というものが作られていたが、『類聚國史』はこの類書にならったものである。

『類聚國史』は、もともと本史二百巻、目録二巻、帝王系図三巻があったが、現在はそのうち六十二巻が残っているに過ぎない。附属図書館所蔵の『類聚國史』はこのうちの巻第二十五の一巻で、内容は帝王部第五の太上天皇、追号天皇の部分である。いうまでもなく古い時代の書物は、手書きの写本として伝えられ、書写の年代が古いほど価値が高いが、本学の『類聚國史』は、書風からみて平安時代末期を降らない時期に書写されたもので、同書の写本の中では最古のものの一つであり、国宝に指定されているのはこのためである。

本巻は狩野亨吉博士旧蔵本で附属図書館の狩野文庫に収められているが、巻首の

東北大学百年史

題字

表紙に「類聚國史卷第廿五 壬生官務旧蔵」と記されていて、もともと壬生家^{みぶ}に伝来した由緒正しいものであることが知られ、その価値が一層高い。加賀藩前田家には、同じく壬生家旧蔵本で、本来本巻と一具で、書写の年代も同時期の『類聚國史』4巻が伝えられ、現在は前田育徳会に所蔵され、やはり国宝に指定されている。



『類聚國史』卷第二十五
(本学附属図書館所蔵)

壬生氏ははじめ小槻^{おつき}氏を称し、平安時代中期から国家の中樞の太

政官の筆頭書記官である官務を世襲独占した家柄で、太政官の庶務を掌握し、官文書を管轄して政務の執行のための先例の調査を職務とし、このために平安時代以来、邸内の文庫に官文書・典籍を集積し、明治初めまで伝世してきた。本学と前田育徳会の『類聚國史』はこの壬生家の文庫に伝来してきたもので、由緒正しい伝来といったのはこういった意味である。

本巻は装幀が卷子本すなわち巻物の形で、縦が27.9 cm、横が15.94 mの長大なものであり、墨書で天地の横界線と縦界線を引き、本文は全体が1筆ではなく、おそらく3人の手で書写されている。書跡は奈良時代の専門的な写経生による写経のように端正ではなく、个性的かつ実務的な楷書である。『類聚國史』は壬生家では職務である先例の調査などに不可欠な書物であったから、おそらく壬生家の人たちが手分けして書写したものであろう。

題字の作成

題字の作成に当たり、まず附属図書館のマイクロ・フィルムから全巻の拡大焼き付けを作り、必要な文字を検出した。「東北大学百年史」の7字と、巻次の「一」から「十」までの10字、合わせて17字である。大部分の文字については複数の候補が検出できたが、「学」字だけは見つけれなかったのので、「覚」字の冠と「字」の足を取って合字することにした。

ここまでの編纂室の仕事であり、これ以下は笹氣出版印刷の仕事で、決定された種字をパソコンに図形データとして読み込み、パソコン上で操作した。種字は微妙に大きさが異なり、また別々に書かれた文字であるが、これらを同大にし、かついかにも一息に書かれたように配列しなければならない。そのために各種字を同大の正方形のますに取り込み、各文字の中心を定め、この中心を基準にして文字を配列し、さらに文字の傾き、字間のスペースなどを微調整した。最後に、墨のにじみやかすれなどを生かし、筆文字の雰囲気を出した。

このようにして題字は作成された。各種字が同人の筆でない点が心配されたが、同時期の書であるから雰囲気は似ていて、あまり違和感を感じさせない。また文字の配列も自然で、平安時代末期の書は繊細で格調高く、なかなかの出来映えと自賛しているが、いかがであろうか。

2002(平成14)年

● 4月

- 2日 法学研究科、旧学生部史編纂委員会より『部局史一』収録原稿受領
磯部寛名誉教授(岩手医科大学)調査のため来室
- 9日 旧教養部史編纂委員会より『部局史一』収録原稿受領
- 10日 竹内峯名誉教授(理学部)調査のため来室
- 23日 玉懸博之名誉教授(文学部)調査のため来室

● 5月

- 1日 寒河江香子室員(教務補佐員)採用
- 13日 旧法文学部史編纂委員会より『部局史一』収録原稿受領
百年史編纂室スタッフ会議開催
通史専門委員会部会長会議開催
- 17日 『百年史編纂室ニュース』第9号刊行
- 30日 通史専門委員会部会長会議開催
八木順一郎教授(多元物質科学研究所)調査のため来室

● 6月

- 3日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 10日 第10回通史専門委員会開催
- 19日 法学研究科より『部局史一』収録原稿受領
- 24日 第17回百年史編集委員会開催

● 7月

- 1日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 3日 事務局より『部局史一』収録原稿受領
- 19日 浅尾豊信名誉教授(理学部)調査のため来室
- 29日 玉懸博之名誉教授(文学部)調査のため来室

● 8月

- 6日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 9日 『部局史二』編纂にかかる説明会開催
- 19日 吉田正志教授(法学研究科)調査のため来室
- 20日 第11回通史専門委員会開催

● 9月

- 3日 百年史編纂室スタッフ会議開催
新部会委員との懇談会開催
- 10日 竹内峯名誉教授(理学部)調査のため来室
- 26日 通史専門委員会部会長会議開催

● 10月

- 8日 教育学研究科より『部局史一』収録原稿受領
- 10日 第1回通史専門委員会部会合同会議開催
- 11日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 16日 第28回百年史編集委員会幹事会開催
- 16～ 高橋専門員全国大学史資料協議会(北海道大学)に参加
- 18日
- 25・28日 井原聰教授(国際文化研究科)調査のため来室
- 30日 嶋章名誉教授(流体科学研究所)調査のため来室

● 11月

- 5日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 7日 経済学研究科より『部局史一』収録原稿受領
- 19日 第2回通史専門委員会第一部会開催
- 20日 第3回資料ワーキンググループ開催
- 22日 第2回通史専門委員会第二部会開催
- 28日 第29回百年史編集委員会幹事会開催

● 12月

- 2日 赤尾綱男氏(東北大学同窓生)調査のため来室
- 5日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 13日 第2回通史専門委員会第三部会開催
- 16日 第4回資料ワーキンググループ開催

2003(平成15)年

● 1月

- 14日 第5回資料ワーキンググループ開催
- 16日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 20日 東北大学研究教育振興財団・東北大学出版会・事務局との百年史刊行に関する話し合い
- 27日 第6回資料ワーキンググループ開催
- 28日 中塚勝人記念事業準備委員長に今泉室長、中川・高橋両専門員が刊行計画について説明

● 2月

- 5日 嶋章名誉教授(流体科学研究所)調査のため来室
- 17日 第30回百年史編集委員会幹事会開催
- 20日 百年史編纂室スタッフ会議開催

● 3月

- 5日 第18回百年史編集委員会開催
嶋章名誉教授(流体科学研究所)調査のため来室
- 13日 総務部・経理部・東北大学研究振興財団・東北大学出版会との百年史刊行に関する話し合い
歯学研究科より『部局史二』収録原稿受領
- 14日 百年史編纂室スタッフ会議開催
- 31日 歯学部附属病院より『部局史二』収録原稿受領

● 4月

- 18日 渡部治雄名誉教授(大学教育研究センター)調査のため来室
- 21日 第31回百年史編集委員会幹事会、部会長会議開催
- 23日 第19回百年史編集委員会開催
- 25日 医学系研究科より『部局史二』収録原稿受領

● 5月

- 1日 浅尾豊信(理学部)、江幡武(理学部)両名誉教授、入間田宣夫教授(東北アジア研究センター)調査のため来室
海老澤丕道教授(情報科学研究科)調査のため来室

- 26日 百年史編纂室スタッフ会議開催
31日 『東北大学百年史四 部局史一』が刊行

● 6月

- 9日 理学研究科より『部局史二』収録原稿受領

● 7月

- 2日 百年史編纂室スタッフ会議開催
29日 第3回通史専門委員会第二部会開催

● 8月

- 4・25日 河相一成(農学部)、服部文男(経済学部)の両名誉教授及び安孫子麟元教授(経済学部)、村松勝三郎氏がイールズ事件に関する話し合いのため来室
5日 百年史編纂室スタッフ会議開催
7日 第7回資料ワーキンググループ会議開催
18日 第3回通史専門委員会第一部会開催
21日 中塚勝人記念事業準備委員長と東北大学出版会に今泉委員長、中川・高橋両専門員が刊行計画について報告

● 9月

- 9日 百年史編纂室スタッフ会議開催
24日 嶋章名誉教授(流体科学研究所)調査のため来室
25日 水間豊名誉教授(農学部)調査のため来室

● 10月

- 6日 百年史編纂室スタッフ会議
17日 水間豊名誉教授(農学部)調査のため来室

● 11月

- 10日 百年史編纂室スタッフ会議開催
12日 第8回資料ワーキンググループ会議開催
19日 第20回百年史編集委員会開催

● 12月

- 11日 水間豊名誉教授(農学部)調査のため来室
16日 小林典男教授(金属材料研究所)調査のため来室

2004(平成16)年

● 3月

- 5日 第32回百年史編集委員会幹事会開催
8日 第21回百年史編集委員会開催
26日 薬学研究科より『部局史三』収録原稿受領
31日 流体科学研究所より『部局史四』収録原稿受領
『東北大学百年史八 資料一』が刊行

● 4月

- 1日 沼倉忠志室員(事務補佐員)採用
2日 工学研究科より『部局史三』収録原稿受領
生命科学研究科より『部局史三』収録原稿受領

- 30日 久保内将雄室員(事務補佐員)辞職

● 5月

- 10日 百年史編纂室スタッフ会議開催
25日 農学研究科より『部局史三』収録原稿受領
百年史編纂室助手増員要望提出

● 6月

- 3日 助手増員について中塚勝人記念事業準備委員長と今泉室長、中川・高橋両専門員が話し合い
21日 百年史編纂室スタッフ会議開催
24日 九州工業大学図書館事務長ほか2名調査のため来室
30日 第4回通史専門委員会第一部会開催

● 7月

- 21日 百年史編纂室スタッフ会議開催

● 8月

- 18日 情報科学研究科より『部局史三』収録原稿受領
20日 小林典男教授(金属材料研究所)調査のため来室

● 9月

- 3日 井原聰教授(国際文化研究科)調査のため来室
28日 山田勝芳教授(東北アジア研究センター)調査のため来室
29日 『部局史四』編纂にかかる説明会開催
大藤修教授(文学研究科)調査のため来室
30日 大藤修教授(文学研究科)調査のため来室
沼倉忠志室員(事務補佐員)辞職

● 10月

- 1日 川岸久男室員(事務補佐員)採用
7日 百年史編纂室スタッフ会議開催
山田勝芳教授(東北アジア研究センター)調査のため来室
19日 小林典男教授(金属材料研究所)調査のため来室
28日 山田勝芳教授(東北アジア研究センター)調査のため来室

● 11月

- 8日 刊行計画について中塚勝人記念事業準備委員長と今泉室長、中川・高橋両専門員が話し合い
11日 小林典男教授(金属材料研究所)調査のため来室
24日 旧仙台工事事務所資料室の利用要望案を提出

● 12月

- 7日 百年史編纂室スタッフ会議開催

通史専門委員会部会委員名簿

(平成17年3月現在)

▶ 第1部会 (16名)

部会長 大藤 修 (専門委員・文学研究科)

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| 柳原 敏昭 (専門委員・文学研究科) | 加藤 守通 (部会委員・教育学研究科) |
| 百々 幸雄 (専門委員・医学研究科) | 大桃 敏行 (部会委員・教育学研究科) |
| 太田 照和 (専門委員・工学研究科) | 福土 審 (部会委員・医学系研究科) |
| 井原 聰 (専門委員・国際文化研究科) | 工藤 昭彦 (部会委員・農学研究科) |
| 小林 典男 (専門委員・金属材料研究所) | 井上 督 (部会委員・流体科学研究所) |
| 入間田宣夫 (専門委員・東北アジア研究センター) | 斎藤 文良 (部会委員・多元物質科学研究所) |
| 吉原 直樹 (部会委員・文学研究科) | 山田 勝芳 (部会委員・東北アジア研究センター) |
| 梶山 雅史 (部会委員・教育学研究科) | |

▶ 第2部会 (16名)

部会長 平川 新 (専門委員・東北アジア研究センター)

| | |
|---------------------|------------------------|
| 佐藤 弘夫 (専門委員・文学研究科) | 越後 成志 (部会委員・歯学研究科) |
| 安田 延壽 (専門委員・理学研究科) | 安斎 順一 (部会委員・薬学研究科) |
| 佐藤 勝則 (部会委員・文学研究科) | 佐藤 透 (部会委員・国際文化研究科) |
| 小野 善彦 (部会委員・文学研究科) | 佐々木公明 (部会委員・情報科学研究科) |
| 宮腰 英一 (部会委員・教育学研究科) | 高橋 秀幸 (部会委員・生命科学研究科) |
| 空井 護 (部会委員・法学研究科) | 関内 隆 (部会委員・大学教育研究センター) |
| 長谷部 弘 (部会委員・経済学研究科) | 小原 春雄 (部会委員・医療技術短期大学部) |
| 吉田 武義 (部会委員・理学研究科) | |

▶ 第3部会 (19名)

部会長 水原 克敏 (専門委員・教育学研究科)

| | |
|----------------------|----------------------|
| 吉田 正志 (専門委員・法学研究科) | 川名 洋 (部会委員・経済学研究科) |
| 中島 康治 (専門委員・電気通信研究所) | 飯淵 康一 (部会委員・工学研究科) |
| 熊本 崇 (部会委員・文学研究科) | 永井 康雄 (部会委員・工学研究科) |
| 川合 安 (部会委員・文学研究科) | 大島 徹 (部会委員・国際文化研究科) |
| 高橋 章則 (部会委員・文学研究科) | 小原 豊志 (部会委員・国際文化研究科) |
| 秋永 雄一 (部会委員・教育学研究科) | 海老沢丕道 (部会委員・情報科学研究科) |
| 小川 佳万 (部会委員・教育学研究科) | 浦川 肇 (部会委員・情報科学研究科) |
| 橋本 鉦市 (部会委員・教育学研究科) | 田村 真理 (部会委員・加齢医学研究所) |
| 大内 孝 (部会委員・法学研究科) | 佐藤勢紀子 (部会委員・留学生センター) |

※第1部会は「通史一」、第2部会は「通史二」、第3部会は「通史三」を担当。

● 受贈図書一覧 (学外のみ掲載 平成14年4月～平成16年12月)

● 平成14年

- 4月2日 関西学院学院史編集室より『関西学院史紀要』第8号
 3日 武蔵野美術大学より『武蔵野美術大学史史料集』第3集
 5日 北海道大学125年史編集室より『北海道大学125年史編集室だより』第5号
 10日 龍谷大学より『龍谷大学史報』Vol.1
 12日 神奈川大学より『神奈川大学史資料集』第18集
 15日 立命館百年史編集委員会より『立命館百年史紀要』第10号
 19日 明治大学より『創立120周年と明治大学史展』
 5月2日 慶應義塾福澤研究センターより『近代日本研究』第18巻「富田正文氏蔵書籍目録」
 8日 神戸大学より『神戸大学百年史』写真集
 16日 桃山学院年史委員会より『桃山学院年史紀要』第21号
 20日 神戸大学より『神戸大学百年史』通史Ⅰ
 6月5日 九州大学大学史料室より『九州大学大学史料叢書』第9輯、「九州大学大学史料叢書」第10輯、「試行授業「大学とはなにか」の記録」、『KYUSHU UNIVERSITY ARCHIVES』
 21日 立教大学より『納納記念録』復刻版
 中央大学百年史編集委員会専門委員会より『中央大学史資料集』第19集
 26日 創価大学創価教育研究センターより『創価教育研究』創刊号
 7月9日 宮城学院資料室より『宮城学院資料室年報』第8号
 全国大学史資料協議会より『大学アーカイブスの設立と運営』
 9月17日 中央大学百年史編集委員会専門委員会より『中央大学史紀要』第12号
 11月1日 駒沢大学より『駒沢大学百二十年』
 27日 金沢大学創立50周年記念事業後援会より『金沢大学五十年史』通史編
 12月11日 同志社大学人文科学研究センターより『同志社山脈』
 16日 龍谷大学より『龍谷大学史報』Vol.2
 京都大学大学文書館より『大学文書館研究紀要』第1号

● 平成15年

- 2月5日 明治大学大学史料委員会より『大学史紀要』第7号
 3月14日 同志社社史資料室より『新島研究』第94号、『同志社談叢』第23号
 27日 関西学院学院史編集室より『関西学院史紀要』第9号
 龍谷大学より『龍谷大学史報』Vol.3
 31日 立命館百年史編集委員会より『立命館百年史紀要』第11号
 4月3日 駒沢大学より『駒沢大学百二十年史』
 9日 武蔵野美術大学より『武蔵野美術大学年報1999-2001』
 10日 慶應義塾福澤研究センターより『近代日本研究』第19巻
 17日 神奈川大学より『神奈川大学史資料集』第19集
 関西大学年史編集委員会より『関西大学年史紀要』第14号
 22日 明治大学より『続明治大学と学生』第24集
 5月2日 立教大学立教学院史資料センターより『立教学院史研究』創刊号
 6日 創価大学創価教育研究センターより『創価教育研究』第2号
 9日 桃山学院年史委員会より『桃山学院年史紀要』第22号
 14日 広島大学文書館設立準備室より『広島大学史紀要』第5号

- 26日 全国大学史資料協議会より『大学アーカイブス』第27・28合併号
 29日 北海道大学125年史編集室より『北海道大学125年史編集室だより』第6号
 6月9日 名古屋大学大学史資料室より『名古屋大学史紀要』第11号、「草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治」、「名大祭」、「保存資料目録」第3集
 宮城学院資料室より『宮城学院資料室年報』第9号
 26日 (財)野間教育研究所より紀要第45集『大学史編集と大学アーカイブス』(中野実 著)
 7月28日 福岡大学大学史資料室より『福岡大学大学史資料集』第1集
 8月11日 大阪市立大学より『向陵記』
 9月25日 成蹊大学100年史編集委員会より『成蹊大学100年史』年報1
 駒沢大学禅文化歴史博物館より『禅の世界』、同大学史資料室より『大学建設事務所日誌にみる駒沢移転』
 29日 大谷大学真宗総合研究所より『真宗総合研究所研究紀要』20、『大谷大学真宗総合研究所研究所報』No.42
 10月15日 全国大学史資料協議会より『大学アーカイブス』第29号
 11月25日 中央大学百年史編集委員会専門委員会より『中央大学百年史』通史編下巻
 12月15日 全国大学史資料協議会より『西日本部会会報』No.15

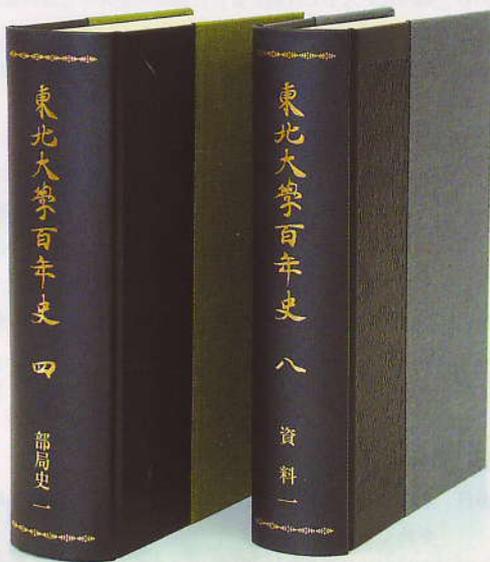
● 平成16年

- 1月19日 全国大学史資料協議会より研究叢書第4号『大学史料をめぐる現状と課題』
 米田彬氏より『思い出の日就寮』、『日就寮の記憶』
 2月5日 北海道大学より『北大百二十五年史』通説編、論文・資料編
 9日 広島大学より『広島大学五十年史』資料編上・下
 10日 明治大学より『大学史研究』第4～19号(バックナンバー)
 17日 秋田経済法科大学より『学校法人秋田経済法科大学五十年誌』
 25日 國學院大學より『校史』Vol.15
 3月1日 日本大学より『日本大学百年史』第4巻
 8日 同志社大学同志社社史資料室より『新島研究』第95号
 31日 関西学院学院史編集室より『関西学院史紀要』第10号、関西学院史紀要資料集Ⅰ『旌忠碑』
 4月2日 大谷大学真宗総合研究所より『大谷大学百年史』資料編別冊・戦時体験集
 5日 京都大学大学文書館より『京都大学大学文書館研究紀要』第2号
 12日 全国大学史資料協議会より『大学アーカイブス』第30号
 5月21日 広島大学文書館設立準備室より『広島大学史紀要』第6号
 6月9日 創価大学創価教育研究センターより『創価教育研究』第3号
 9月10日 成蹊学園史料館より『成蹊学園史料館年報』2003年度
 10月5日 新潟大学より『新潟大学五十年史』総編、部局編
 20日 拓殖大学創立百年史編集室より『拓殖大学百年史研究』15号
 11月8日 明治大学史資料センターより『明治大学史資料センター案内』
 12月13日 宮城学院資料室より『宮城学院資料室年報』第10号

● お知らせ ●

平成15年5月には、文科系学部、事務局、附属図書館などを収録した『部局史一』が、翌16年3月には東北大学の沿革に関する基本資料を収録した『資料一』が刊行されました(写真参照)。また、平成17年3月には理学研究科、医学系研究科・医学部附属病院、歯学研究科、歯学部附属病院を収録した『部局史二』が刊行予定です。

これらは各国立大学附属図書館や各県立図書館などで閲覧可能です。なお、個人での購入を希望される方は東北大学出版会(022-214-2777)までお問い合わせ下さい。



『部局史一』本文

● 百年史編纂室ニュースに関するご意見・ご感想等がございましたら、編纂室までお寄せ下さい。
また、東北大学に関する歴史的資料についての情報をご提供くださいますようお願いいたします。

東北大学百年史編纂室ニュース 第10号 発行日：2005年3月1日
編集・発行：東北大学百年史編纂室
(東北大学史料館内)
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
TEL・FAX 022-217-5042
URL：http://www.archives.tohoku.ac.jp/
hensan/index.htm
e-mail：hyakunen@bureau.tohoku.ac.jp